

3/31 動労千葉 佐倉支部結成！

日刊 動労千葉

804.6
NO. 48

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（電話二三八八九・公衆電話（22）七二〇七）



全国の動労組合員のみなさん。三月三十一日、あらゆる妨害をはねのけ、ついに佐倉支部の結成大会が圧倒的にかちとられました。佐倉支部では、昨年十一月十六日、成田支部を先頭に結成した動労千葉全組合員の決起により闘われた十・二二、十一・一の二波にわたる三里塚ジェット燃料貨車輸送阻止のストライキの闘いに応えて支部大会を開催し、「組織方針は新執行部に一任する」との大会決定を行ってまいりました。そして、執行委員会での徹底した討論と職場集会の数度の開催をもって、「本部」反動分子による動労千葉組織破壊策動の反動性を見抜き、ついに動労千葉佐倉支部結成大会を開催し満場一致で決定したのです。いま佐倉支部の仲間が動労千葉の組合員として確信をもって八〇春闘勝利へむけた活動を開始しました。「本部」反動分子は自らの運動的・路線的・財政的破産を隠蔽するために「千葉の多くの組合員の心は動労『本部』だ」等とデマ宣伝をしていますが、事実は全く逆であることが、動労千葉佐倉支部結成という事実により雄弁に示されています。動労千葉は同じ三月三十一日を中心に展開した新組合員獲得行動の中でも、（客貨車区六名を除く）運転関係四五名の新採中三十三名を獲得し着実に組織強化をかちとっています。



されました。この決定をうけて直ちに結成大会が開催されました。

この間、支部執行部を先頭とする佐倉支部組合員の闘いは、他支部では経験したことのない苦闘の過程でありました。佐倉支部が労農連帯の要である、三里塚・ジェット闘争の拠点であるがゆえに、「本部」反動分子による「ジェット闘争」拠点つぶしとしての執りなまでの暴力的脅迫、デマ宣伝との闘いの連続であったのです。

その最たるものが、革マル分子・村上（前関東青年部長）の支部役員に対する「結成大会やれるならやってみろ、その後責任はもたないぞ」等という脅迫言辭であり、動労千葉へ結集しようとする苦闘する役員・活動家の自宅への脅迫・いやがらせ電話です。しかし、こうしたイヤガラセやデマ宣伝と一人ひとりが対決し、「労働組合とは何か」を真剣に考え、討論を行い、ついに決断した大きな成果なのです。

動労千葉のすべての組合員は、執行部を先頭とした佐倉支部組合員の苦闘の一年の貴重な経験を教訓化し、銚子支部結成にむけて、一層奮闘する決意を固めています。

動労大改革へ更に前進しよう

全国の組合員の皆さん。今、「本部」反動分子は、目黒選挙は動労の戦略課題といいつつ、国鉄三五万人合理化攻撃の基軸である、「乗務員運用合理化」に対し完全に沈黙し方針すら提起していません。東京地本方針「協定以上にかちとった成果をほさだす」なる合理化促進方針では、動労の明日はありません。いまこそ動労大改革へ、共に前進しようではありませんか。

「本部」反動分子の「再建策動」破産証明

三月三十一日、佐倉支部結成大会に先だって行われた臨時支部大会は、代議員、傍聴者五十七名が結集し、千葉本部より関川委員長、西森副委員長、中野書記長、林執行委員が参加し、また佐倉支部の乗務の乗り入れ先である新小岩、蘇我、成田の三支部長が参加する中で開催されました。支部執行部から、「支部は動労千葉に結集する」との確固たる組織方針案が提起され、参加した代議員、傍聴者の満場一致で執行部提案が確認決定